

保護者の皆様へ

令和 7 年度 全国学力・学習状況調査の市全体の結果について

袋井市では、幼小中一貫教育の仕組みを生かし、子どもたちの「考える力」を育むための授業づくりを進めています。子どもたちは学習課題と向き合うことをとおして、問いに対する様々な考えを「関係付け」ながら自分自身の納得のいく考えを見出していきます。

この調査では、子どもたちの学力だけでなく、日々の生活や学習の状況調査も行っています。それにより、規則正しい生活習慣や学習習慣と、子どもたちの学力との関係性が明らかになりました。学校・家庭・地域が一体となって子どもたちを支援していくことが、子どもたちの成長には欠かせません。保護者の皆様のお力添えをどうぞよろしくお願いいたします。

本年度の調査結果と分析
について説明します。



©袋井市

I 調査の概要

- (1) 実施日 令和 7 年 4 月 17 日 (木)
- (2) 対象 小学校 6 年生 (国語 780 名・算数 781 名・理科 781 名・学習状況調査 778 名)
中学校 3 年生 (国語 705 名・数学 706 名・理科 710 名・学習状況調査 709 名)
- (3) 実施内容 国語・算数(数学)・理科・学習状況調査
- (4) 調査問題 国立教育政策研究所 HP で公開

<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>



学力調査は、子どもたちが身に付けるべき学力の一部分を測定したものです。すべての学力を表したものではありません。

学習状況調査は、子どもたち自身の学習に対する意識や、日常生活習慣等の実態について調査したものです。

2 学力調査と学習状況調査の結果

(1) 学力調査

ア 全体の結果

教科	小学校			中学校		
	国語 (14 問)	算数 (16 問)	理科 (17 問)	国語 (14 問)	数学 (15 問)	理科 (26 問)
袋井市	64	55	54	56	49	525
全国 (公立)	66.8	58.0	57.1	54.3	48.3	503

※ 袋井市の結果については、整数での集計となっています。上の結果は、問題の軽重に関係なく、全問題のうちの正答した割合(平均正答率 単位：%)を示したものです。

※ 中学校理科は、タブレットを活用したテストであり、生徒ごとに出題される問題が異なります。問題の難易度から学力を予測し、基準値 500 を基に IRT スコアとして算出します。生徒は、共通問題 6 問、実施日により異なる問題 4 問、非公開の問題 16 問、合計 26 問解答します。

イ 記述式問題の無解答率

解答用紙に何も書けていない児童生徒の割合が高いと無解答率（単位：%）が高くなります。袋井市では、0%を目指しています。

(ア)国語

設問	小学校		中学校			
	2三	3㉔	1四	2四	3四	4二
袋井市	8.1	20.8	1.8	3.7	21.6	16.7
全国 (公立)	5.0	16.2	1.6	4.0	28.1	19.1

(イ)算数・数学

設問	小学校				中学校				
	1(2)	2(4)	3(2)	4(2)	6(2)	6(3)	7(2)	8(2)	9(3)
袋井市	1.8	5.5	20.6	8.1	23.5	16.1	2.8	31.7	28.8
全国 (公立)	0.9	2.7	15.7	3.4	24.9	20.2	2.2	35.0	31.5

(ウ)理科

設問	小学校		中学校	
	1(2)	3(4)	1(2)	1(6)
袋井市	11.4	16.8	5.1	8.7
全国 (公立)	8.5	11.4	8.0	9.9

※ 中学校の問題は、全生徒に出題される共通問題 6 問における記述式問題の無解答率です。

(2) 学習状況調査

結果は、肯定的な回答をした児童生徒の割合を示したものです。

ア 肯定的な回答の割合が（全国と比べて）高かった主な項目

設問	小学校		中学校	
	袋井市	全国比	袋井市	全国比
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	80.9	+2.8	84.9	+5.7
あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理することができると思いますか	74.8	+5.5	74.5	+11.2
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか	86.5	+1.6	89.5	+4.8
授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか	84.6	+2.1	79.1	+4.3
これまでに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか ※「ほぼ毎日」と答える児童生徒の割合	72.4	+25.7	85.4	+32.2

イ 肯定的な回答の割合が（全国と比べて）低かった主な項目

設問	小学校		中学校	
	袋井市	全国比	袋井市	全国比
これまでに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	59.5	▲9.1	59.8	▲3.2
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む） ※「2時間以上」と答える児童生徒の割合	23.1	▲1.8	28.6	▲2.2
解答時間は十分でしたか（国語） ※「時間が余った」「ちょうどよかった」と答える児童生徒の割合	60.1	▲13.8	62.8	▲5.0
解答時間は十分でしたか（算数・数学） ※「時間が余った」「ちょうどよかった」と答える児童生徒の割合	71.6	▲8.8	62.6	▲10.6

ウ 同一集団（R4小6→R7中3）で肯定的な回答が増加した項目

設問	令和4年度 小学6年	令和7年度 中学3年	上昇幅
自分には、よいところがあると思いますか	80.4	90.7	+10.3
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	89.4	92.8	+3.4
人が困っているときは、進んで助けていますか	91.1	94.8	+3.7
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	69.6	75.6	+6.0
あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	80.2	90.8	+10.6
学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか	80.1	86.1	+6.0

3 分析

(1) 学力調査の結果から

小学校	国語	○文章の内容を正しく説明したり、適切に理由や原因を述べたりしている選択肢を選ぶ問題は、無解答率が低く正答率が高い。 ●<u>問題の全体像を把握しつつ、複数の資料を活用・関連付けて決められた条件を満たしながら解答する</u>問題は、無解答率が高く正答率が低い。
	算数	○小数や分数の計算をしたり、図やグラフを読み取って適切な答えを選択したりする問題は、無解答率が低く正答率が高い。 ●<u>分数の計算方法を数や言葉を使って説明したり、解答に必要な条件を考えながら求め方を式や言葉で書いたりする</u>問題は、無解答率が高く正答率が低い。
	理科	○自分の知識と実験方法や植物の図を関連付けて、適切な語句や数字を選択したり、実験結果をもとに予想しその理由を選択したりする問題は、無解答率が低く正答率が高い。 ●<u>実験結果を基に結論を導いた理由や、実験結果から見出した新たな問いを、自分の言葉で説明する</u>問題は、無解答率が高く正答率が低い。

中学校	国語	○文章や資料の目的・意図・理由・効果等を適切に説明している選択肢を選ぶ問題は、無解答率が低く正答率が高い。 ●<u>文章の内容を読み取ったり解釈したりして、複数の条件を満たしながら、自分の考えとその理由を具体的に書く</u>問題は、無解答率が高く正答率が低い。
	数学	○適切な数字を入れて説明文を完成させたり、グラフや図から分かることを選択したりする問題は、無解答率が低く正答率が高い。 ●<u>式の意味を理解し数学的な表現を用いて表現したり、予想が成り立つ理由や求め方を説明・証明</u>したりする問題は、無解答率が高く正答率が低い。
	理科	○問題の難易度が低く、科学的な知識や安全に実験を行うための技能について、適切な選択肢を選ぶ問題は、正答率が高い。 ●<u>問題の難易度が高く、情報を解釈して適切な選択肢を選ぶ問題や、予想や仮説を立証するための実験結果を選択したり書いたりする</u>問題は、正答率が低い。 ※公開問題(共通)のみ分析

(2) 正答率が高い児童生徒に見られる傾向 (学力調査と学習状況調査の結果より)

ア 家庭生活や児童生徒に関すること

- | | |
|-------------|----------------|
| ・朝食を毎日食べている | ・人の役に立つ人間になりたい |
| ・学校に行くのは楽しい | ・自分には、よいところがある |
| ・読書が好き | ・家にたくさんの本がある |

⇒家庭生活と学校生活の安定は、学力のベースになると考えられます。

⇒人の役に立ちたいという思いは、良い人間関係を築くことに役立ちます。人との関係が良好であれば、対話や議論を楽しむことができ、自分の考えを広げたり深めたりすることができます。

⇒本を手にする機会を増やし、新しい情報を得たり語彙を増やしたりすることは、「考える力」を身に付けていくための基礎になります。

イ 主に学び方に関すること

- | |
|--|
| ・分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている |
| ・学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている |
| ・PC・タブレットなどの ICT 機器を使って情報を整理できる |
| ・PC・タブレットなどの ICT 機器で文章を作成できる |

⇒自分で学びを考えて工夫することで、個の学びが充実します。お互いに協力しながら課題の解決に取り組むことで、協働的な学びが実現します。これにより、確かな学力が育まれると考えられます。

⇒PC・タブレットを学びの道具として有効に活用する力は、「考える力」を身に付けるために必要なスキルです。

ウ 主に授業に関すること

- | |
|---|
| ・(小) 目的に応じて、簡単に書いたりくわしく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書いている |
| ・(中) 国語の授業で、文章を書いた後に、読み手の立場に立って読み直し、語句の選び方や使い方、文や段落の長さ、語順などが適切かどうかを確かめて文章を整えている |
| ・(小) 小数や分数の計算をするとき、工夫して計算しようとしている |
| ・(中) 文字式を用いた説明や図形の証明を読んで、かかれていることを理解することができている |
| ・全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した |

⇒表現方法を工夫して書いたり、書いた内容を推敲したりすることで、自分の考えが整理されて学びが深まり、学習内容が定着すると考えられます。

⇒自分なりに工夫して取り組む力や、数式や図などの様々な情報を読み解き理解する力が、確かな学力に結び付くと考えられます。

⇒あきらめずに試行錯誤することや、課題の解決に向けて自分から取り組み、学んだことを生かしながら自分なりにまとめる経験により、知識・技能の定着に加えて、「考える力」が育まれていきます。また、課題を追究しようとする主体性も培われます。

4 今後の取組

子どもたちの思考の深まりや広がり、思考スキル、追究する姿勢といった「考える力」を育てていくために、袋井市では『袋井型』授業づくりに取り組んでいます。袋井市では、以下の3つの要素を大切に授業計画を立て、実践しています。

- ・子どもが考えたくなるような、「？型の学習課題」を設定する
- ・自分自身の考えを深めるために、対話や議論の場を設定する
- ・学習課題に対し、自分自身の納得のいく考え(納得解)を書く「個のまとめ」の時間を設定する

全国学力・学習状況調査の結果から、袋井市の子どもたちには自己肯定感があり、自分の意見を大切にしつつ、他者の考えと向き合う気持ちが育っていることが分かりました。

また、子どもたちは、ICT機器を活用し、学びを実生活に結び付けることで、意欲的に学びや活動に取り組んでいることも分かりました。

今後は、日々の授業において、「疑問点を伝える」「確認し合う」「説明する」「理由を述べる」「まとめを発表する」など、他者と関わる中で、学びが広がったり深まったりする場と機会を設定します。さらに、対話や議論の場と、自分自身の納得のいく考え(納得解)を表出する「個のまとめ」の充実を、さらに図ることで、子どもたち一人ひとりが自分の思いや考えをアウトプットすることに重点を置いた授業改善を進めていきます。

家庭での過ごし方についても、ぜひ
お子さんと話し合ってみてください。

